

二酸化塩素製剤 比較表

タイプ	類別	形態	効果		貯蔵安定性	二酸化塩素濃度 【ppm】	利便性	コメント
			消臭	除菌・ウイルス				
水溶液	安定化二酸化塩素水	1液	○	△	○	100~250,000 ※2	○	一般的には、消臭目的として利用されている。安定化の状態(ほぼ透明な液体)では菌やウイルスに対して即効的な効果は期待できない。
	安定化二酸化塩素水 + 酸(液体又は粉末)	2剤	○	○	○ [酸混合後は×]	500~250,000 ※2	×	菌やウイルスに対して効果を発揮するために酸を加えて使用する。反応時間が必要なことと、温度によって反応後の二酸化塩素濃度にバラツキがある。
	安定化二酸化塩素水 + アルコール	1液	○	○	△	不明	○	近年商品化されたものだが、菌やウイルスに対するデータ上の評価としては上々である。ただし、真菌類(カビ)や芽胞菌に効果があるかは不明。
	純粋二酸化塩素水	1液	◎	◎	×	100~4,000	○	水の中に二酸化塩素が溶けている状態(黄色の液体)なので商品到着後すぐに使用できる。30~45日が使用期限となっており、貯蔵できないのがネック。
	二酸化塩素ガス溶解液 【特許技術】	1液	◎	◎	○	100~500	○	純粋二酸化塩素水の欠点である貯蔵安定性を補うことに成功した特許技術。他の水溶液タイプと比べてコスト高(濃度換算による)であるが高品質。
粉末・固形	二酸化塩素発生粉末	2剤	○	○	○	お問合せ下さい	○	主に浴場やプールで使用されており、大量の水を処理するのに向いています。他の薬剤に比べて安価なので、コスト重視の方にはオススメです。
	安定化二酸化塩素 粉末・顆粒	1剤	△	△	△	不明	○	空間の除菌消臭剤として利用されている。空気中の湿度を吸収することで反応し、二酸化塩素が発生するメカニズムなので乾燥している室内には不向き。
	二酸化塩素発生ビーズ	2剤	○	○	○	0.1以下(空間)	○	ゲル剤と同様の使い方で、主に空間内の菌やウイルスの除去、消臭、防カビに利用されている。
	二酸化塩素発生 タブレット	1剤(錠)	○	○	○	お問合せ下さい	○	主に浴場で使用されており、小規模の水処理(幼稚園のプール等)に向いています。上記の粉末タイプと比べるとコスト高になるのがネック。
ゲル	安定化二酸化塩素 ゲル ※1	1剤	△ [○]	△ [○]	△	不明	○	ゲル剤単独での使用では二酸化塩素は極微量しか発生しないため、ほとんど効果が期待できない。
	二酸化塩素発生ゲル 【特許技術】	2剤	○	○	○	0.1以下(空間)	○	2剤混合時(1~2日)は反応するため二酸化塩素の発生量は多くなるが、その後はほぼ一定に長期間発生量をコントロールできる優れた特許技術である。

※1 安定化二酸化塩素に紫外線ランプを照射させる場合は、二酸化塩素ガスが発生するため除菌・ウイルス除去効果は期待できません。

※2 上記数値は、二酸化塩素ガス濃度ではなく、二酸化塩素の前駆物質である亜塩素酸イオン濃度です。

原液濃度、酸の混合量、温度、反応時間等によって二酸化塩素ガスの発生量は大きく異なります。

【お問合せ先】

株式会社リンクス 環境衛生事業部/藤田
TEL:03-3971-1175 E-mail:fujita@s-k.gr.jp